

# 防コミの歩き方

BOSAI  
KOBEMIRAI

## 幼稚園児の集団一斉避難訓練

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、直後に発生した津波により多くの尊い人命が奪われました。特に要援護者と呼ばれる幼年者や高齢者に犠牲者が多いことは、他の種類の災害と変わりません。要援護者と呼ばれる方々が迅速・確実に避難することが大きな課題として残りました。そこで、真陽地区防災福祉コミュニティでは9月25日、幼稚園児の集団一斉避難訓練を実施しました。

### ●目的

神戸市では山が海に迫っている地形から、津波避難については海側から山側へ避難する「水平避難」を原則としています。「水平避難」ができないやむを得ない場合に限って、付近の堅固かつ高さのある建物に避難する「垂直避難」をすることになっています。

どのようにして多くの幼年者たちを迅速・確実に避難させるのか？その時の地域の人々のかかわりはいかにあるべきか？をテーマとし、訓練の結果得られた事実を検証します。

### ●概要

高松線沿い北側にある近田幼稚園の園児404人（0～5歳児）と職員37人が地震の揺れが収まった直後徒歩にて北上し、約500m離れた目的地である新長田公園へ国道2号線を越えて避難するものです。

### ●実施

陸上の震度が6弱と想定されておりますので、まず園児たちの地震に対する安全確保がなされました。引き続き安全な園庭に園児・職員と集合し、人員確認と並行して避難の

態勢を整えました。

避難方法は最も確実な徒歩によるものとし、園児の年齢に応じて組み合わせ、手をつないだ2人1組で実施されました。

避難を想定するに、園児の数に対して職員の数は絶対的に不足しているため、地域住民が積極的に支援をおこないました。特に混乱することが確実な自動車交通の状況に対応できるように、各交差点に重点的に配置しました。



### ●結果

今回の訓練はこれで完結したのではなく、あくまで出発点です。当日は神戸大学都市安全研究センターの北後明彦教授のチームにより綿密なデータ採取がおこなわれましたが、これを分析検討して、さらに優れた避難方法を探るために研究をしていきたいと思います。



(真陽地区防災福祉コミュニティ

本部長 中谷紹公)